

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教189年4月1日
発行責任者 九里正昭
発行住所 甲賀町神1750番地の1
4月号 NO307

立教189年

全教一斉 ひのきしんデー

江南支部会場一覧

甲南組

甲南地域市民センター 8時30分～11時30分 草刈り・
清掃 雨天順延

甲賀組

甲賀B&G海洋センター 8時30分～11時30分 草刈り・
清掃 雨天順延

信楽組

(特養) 信楽荘 8時30分～11時30分 草刈り・清掃
雨天決行

追加会場

甲南組

(社福) やまなみ工房 5月16日 午前9時～11時30分
草刈り・雨天 室内清掃

信楽組

紫香楽病院 期日未定 8時30分～11時30分 草刈り・
清掃 雨天中止

「かしもの・かりもの」を心に
一手一つに ひのきしん

4月29日(水・祝)

📍お近くの会場は
「教区・支部情報ねっと」で
ご確認ください



だけど有難い

深谷善太郎著

喜びましょう

「喜びましょう」と言うと、「元気なときならともかく、病気で苦しいときに喜びましょうもないだろう」と思う人もいるでしょう。しかし、元気で忙しいときは気づかないけれど、病気で寝ているから分かることもあるものです。必ずしも元気だから喜べるとは限りません、病気でつらいときだからこそ、じっくり考えてみる事ができるのではないかと思うのです。また一つには、病気で苦しい最中でさえ喜ぶ努力をしているーその心を親神様は受け取りくださいます。だから、「喜びましょう」と言いたいのです。

娘が小学一年生のとき、右目の上に大けがをしたことがありました。担任の先生が病院から連絡を下さったのですが、私はけがのことを聞くなり、「有難い」と思いました。

なぜなら、河原町大教会の初代会長を務めた深谷源次郎は、右目が潰れるところをたすけていただいて、本気で信仰を始めました。私も赤ん坊のころ、

右目の上に大けがをしました。父からよく「おまえは初代と同じように右目が潰れるところをたすけていただいた。あのとき、けがの場所がもう少しずれていたら失明していたかもしれない。たすけていただくは良かったな。目が見えるということは有難いな」と、聞かせてもらったものです。そして、今度は娘まで、たすけていただいた。だから私は、最初に聞いたときからうれしかったのです。

娘が病院から帰宅後、おさづけを取り次がせていただきました。取り次いでいる最中に、ぐっすり眠ってしまい、そのまま朝まで寝てくれました。翌朝、娘に初代と私のたすけていた話をしました。

「今度は、おまえもたすけてください。いまは痛いかもしれない。でも、目を開けたら物が見える。有難いなあ。一緒にお礼をさせてもらおう」

そう言いますと、娘はニコニコして、それから神殿で一緒にお礼のおつとめをさせていたのです。治ったから、お礼をしているのではありません。

けがをしたのに、お礼をしている。なぜなら、たすけていただいたことが分かるからです。

親々のおかげではありませんが、このように思案をすれば、けがも喜ぶことができますのです。

初代会長は「けっこう源さん」「ありがた屋の源さん」と言われるくらい、喜び上手でした。額を打つても「痛い、有難い。痛いと感じさせてもらえることが有難い」と言ったそうです。痛くても「有難い」と、喜ぶ努力をしました。

ここにヒントがあるのです。それは何か。たとえば、冬の朝起きたときに、たまらず「寒い！」と口に出してしまっても、その後に「有難い！」と言ったらいのです。何を喜ぶのか、何が有難いのか考えるのは、それからいい。人間は「しんどい」と言っていたら、本当にしんどくなります。「有難い」と言つて通らせていただくなかに、本

当に有難い姿が見えてくるのです。

あちらでも喜ぶ、こちらでも喜ぶ。

喜ぶ理は天の理に適う。

(おさしづ) 明治三十三年七月十四日)

日々嬉しい／＼通れば、理が回りて来る。(同 明治三十四年七月十五日)

親神様は、このようにおっしゃっています。

「喜ぶ」ことは陽気ぐらしの原点です。病気で「痛い」「苦しい」思いをしている方も、ぜひ喜ぶ努力をしていただきたい。親神様は、子供可愛い親心いっぱい、たすけるためにふしを見せてくださっているのです。



『みちのとも』より「すい話 どんなときも親神様・教祖が頼り」

佐藤正幸 本八戸布教所長

私は単独布教師です。今年で37年目になります、どんなときも親神様、教祖が頼りです。

30歳のとき、自転車に最低限の荷物と寝袋を積み、生まれ育った津軽から八戸に来ました。本八戸の駅前まで来て、さて何をしようかと考えあぐねた私は「教祖、右も左も分からない土地です。どうしたら良いですか？」と天を仰ぎました。すると、こかん様が浪

速で神名流しをされている姿が頭に浮かんだので、駅前で神名流し、よろづよ八首奉唱、路傍講演をさせていただきました。これは、いまでも毎日続いています。

しばらく経って物置小屋が与わり、7年後にアパートを、その10年後には一軒家をご守護いただき、父と、大きな身上を頂いた母を津軽から呼び寄せました。

東日本大震災のとき、自宅が全壊した高齢の信者さんに布教所へ来てもらいました。数日して、温かい物が食べたいと懇願されたもののどうにもできず、教祖におすがりしました。すると「支部、支部」という声が聞こえた気がして、支部管内の教会を訪ねて回ると、携帯用のガスボンベを譲ってもらい、調理することができました。

このたびの年祭活動が始まる前年、母が持病で入院しました。コロナ禍で面会禁止だったため、千羽鶴をお供えして入院の荷物に加え、毎日、母宛ての手紙を書いてお供えし、病院に届けました。後日、手紙を母に読み聞かせ

てくれた看護師たちが、自分の親を思つて涙していたと聞き、教祖のお働きに感じ入りました。

夏のある日、当初は退院できる見込みだった母が出直しました。危ないと連絡を受けて駆けつけると、もう出直した後で、最期のひと言さえ交わせませんでした。父もすでに亡く、親孝行できなかったという思いから何の気力も湧かなくなり、教会の月次祭にも参加できない自分は「もう駄目かも」と思いました。そんなとき「諭達第四号」が発布され、「ぢばを慕い親神様の思召に添いきる中に、必ず成程という日をお見せ頂ける」というお言葉に希望を頂き、立ち上がることができました。生涯、教祖に喜んでいただけよう、ひながたの道をコツコツとたどらせていただきます。

「おむづいよひ」

皆んな一つの心で治まりて居りや、神が連れて通る。神が連れて通れば危なきは無い。心の理がどんなならん／＼という。心の理が損じたるは、道具の損じたようなもの。

(明治31・2・27)

教祖 誕生祭



4月18日(土)
10:00～

よろこびの大合唱
誕生祭祭典終了直後：本部中庭



記念行事

・支部の集い
式典終了後

・講演会

4月18日(土)
午後5時 (4時間場)

テーマ 「おやさま」

第二食堂
河原町支部長 深谷靖子

東講堂
名京前支部長 諸井恵美子

東右第一棟 4階講堂
明舞支部長 宮森みよる

東左第五棟 4階講堂
アメリカ婦人会主任 深谷宏美

天理教婦人会 第108回総会

4/19 (日)
9:30～ 受付開始 8:00～

場所 本部中庭、南・東礼拝場前、西境内地



新組長

甲南組	小林治雄	龍池分教会長
信楽組	黄瀬武彦	宮野里分教会長
甲賀組	山下 隆	近東分教会長

4月支部にをいがけデー

4月28日午前9時

拠点教会 甲南分教会 甲南町深川1878番地